

技能・タスク型プログラム 活動・ユニット案 「インタビューしたことを報告する」

ユニット名	「インタビューしたことを報告する」	
対象児童生徒	()小学低 ()小学中 (○)小学高 (◎)中学生 中学1年生 滞日1年 出身:フィリピン 母語:タガログ語 (他の国・母語でも可能)	
時間	(35)分 × (4)回	
形態	(○)少人数グループ ()個別指導	
主な対象の日本語の力 [ものさし]	おしゃべりななんとかできるが、整った形で話すことがまだ難しい。また、聞いたことをメモしたり、それをもとに文章化することには困難が大きい。 [聞く・話す]ステップ:4 [読む]ステップ:3 [書く]ステップ:3 [聞く・話す]ステージ:D [読む]ステージ:D [書く]ステージ:D	
目標 (Can-doで)	・インタビューで得た情報をメモし、報告文を書くことができる。 ・友達の活動(部活動・塾)についてインタビューし、聴取した内容を順序立てて報告できる ・友達との関係を築き、同世代の関心・生活を理解しようとする。	
主な技能	インタビューで聞き取った内容のメモを作成する。 簡単な調査報告文を書く。(≒知識・技能の目標)	
タスク	友達に部活動/習い事等について取材し、メモを作成し、報告の文を書く。	
コア日本語 語彙・表現	・○○さんに、○○について取材しました。 ・○○部は、週3回活動をします。 ・まず、～を○分します。それから、～をします。～の後、～をします。 ・○○さんは、○○部に入っているそうです。 ★「～について報告する」順序を表すつなぎことばの利用を促す。 語彙・表現は、インタビュー内容に応じて選定する。	
主な活動	学習活動	学習方略
	①メモを取る→口頭で報告する→報告した内容を書く(第1回) ②報告文(モデル文)を読む →第1回の報告内容に関し報告文を書く(第2回) ③インタビューをして、メモを作成する(休み時間、あるいは宿題) ④メモをもとに報告文を書く(第3・4回)	・重要なことを落とさず聞き取る(スキミング)、メモは簡条書き・キーワードのみで。 ・モデル文(報告書)から定型表現、接続詞を抽出し、書き出し、結びの文に利用する。 ・聞き取れない・知らない語は、インタビューイーにメモとして書いてもらう(ルビつき) ・報告書の構成を決めてからメモの内容を並べ替えて、書く内容と順番を決定する。
アイデア	<生徒の多様性への対応>	
	・日本語の力に応じて、インタビューの相手やトピックを調整する。本人が興味を持って取り組めるトピックにすることが望ましい。 <他のプログラム・教科との関係> ・小学校国語科「話すこと・聞くこと」単元に、インタビューをしてメモを作成し、メモをもとに報告をする活動がある。その単元に関連付けて実施し、在籍学級で報告する機会をつくる。	

【3・4回の授業の学習活動案】

本時の目標	友達に部活動等についてインタビューし、聴取した内容を3部構成で、順序立てて報告することができ、この活動を通じて同世代の友達の関心・生活を理解しようとする。		
分	展開 (子ども主語)	活動時の表現 教師と子どもに分けて	○教材 ◇支援 △留意点
第3回			
導入 1 取材する内容を決める。	T: ○○さんに、何についてインタビューしますか。 S: 部活動についてインタビューします。	△インタビューイーをクラスメイト等から決めておく。 ◇参考に前回のインタビュー報告例を示す。	
展開 2 取材時の質問項目を決める。 3 メモ用紙に質問を記入する。 ・質問の仕方を丁寧に する。 ・インタビューの開始と終了時の依頼とお礼の挨拶を考える。	T: ~について、どんな質問をしますか。 S: 何部? なんて入った? 部活動で何してる? 何が楽しい? つらいことは? 目標は? T: なんて入った?を「ですか・ますか」を使って質問しましょう。 S: どうして、○○部に入りましたか? S: 入部した理由は何ですか、とか。(やりとりしながら、丁寧な質問文にして、インタビューの質問をメモ用紙に書き入れる。) T: インタビュを始める時と、終わる時、なんといいですか。 S: インタビュー、いいですか。 T: よろしいですか、とお願いしましょう。	◇インタビュー報告例の内容から質問を例示する。 ◇質問文の作成で参考にできるように、「入部の理由、活動内容、やりがい、目標」等を文字カードで示し、使用を促す。 ○メモ用紙(質問と回答欄があり、質問を書き込めるもの) ◇インタビューの開始時と終了時の依頼表現やお礼の表現を、やりとりで生徒から引き出し、必要に応じて、丁寧な表現を提示する。	
まとめ 4 インタビューの練習をする	S: (メモ用紙の質問文を見ながら、インタビュー) ○○さん、インタビュー、よろしいですか。何部に入っていますか。入部の理由はなんですか。部活動でどんなことをしていますか。次の試合はいつですか。どんな時、やりがいを感じますか。3年生の目標を教えてください。ご協力ありがとうございました。	○生徒同士でインタビューの練習を行う。	
休み時間を利用して、友達にインタビューをし、メモを作成する。			
第4回			
導入 1 メモをもとに、結果を口頭で簡易報告をする。	S: ~さんにインタビューをしました。~さんは、○○部です。~だそうです。	◇伝聞の表現「~そうです」を板書し、使うよう促す。	
展開 2 モデル文に倣って内容の構成を決める。	T: 3部構成で報告文を書きましょう。メモを見て、何を書くか考えましょう。	○構成を決めるためのワークシート(上段:モデル文、下	

	<ul style="list-style-type: none"> ・3部構成の内容について話し合う。 ・インタビューメモの内容をもとに、段落毎に文章を書く（ワークシート利用）。 <p>3 モデル文の形式に倣って、文章を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告文の冒頭と最後の文、各段落に必要な接続詞を加え、報告文を完成させる 	<p>S：始めは何部かと理由。次にどんなことをしているかとやりがい。最後に目標と自分の感想にします。</p> <p>S：（メモをもとに文を書く） ○○さんは～部に入っています。入部の理由は～です。部活動で～たり～たりしています。○月○日に～中学校との試合があるから、練習を頑張っています。～のとき、やりがいを感じるそうです。3年生の目標は～だそうです。</p> <p>T：報告文の最初には、何をかきますか。2番目の段落の最初に接続を使いますか。</p> <p>S：いつ、誰にインタビューしたか。何についてインタビューしたか。接続詞は、3段落目だけでいいです。</p>	<p>段：メモをもとに内容を書き入れる、3部構成の枠あり)</p> <p>◇生徒が書きたいことを表すのに適した語彙・表現を板書して利用を促す</p> <p>○報告文を書く原稿用紙 ◇モデル文の書き出しと結びの文に注目させる。</p> <p>◇接続詞を複数提示し、本人に使用の判断をゆだねる。</p>
	<p>まとめ</p> <p>4 報告文を友達と交換して読み、わかったことを紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューと報告文作成について振り返る 	<p>T：友達の報告文を読んで、何に気づきましたか。</p> <p>S：○○さんへのインタビュー報告を読んで、○○にやりがいを感じているのは○○さんと同じだと思いました。</p> <p>S：インタビューでは～が重要です。これからも、報告文では～を注意して書きます。</p>	<p>◇報告文を書く時に意識した点を意識して、友達の作文を読むように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き出し・3部構成・接続詞・「～そうです」の利用 <p>◇振り返りの問いを示す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をして、そこから何を学びましたか ・次回、どうしたいですか。
<p>評価の対象と観点</p>	<p>第3回 活動2で活動メモ用シートの（質問文）：相手の気持ちや考えを引き出す質問か。</p> <p>第4回 活動2で内容構成のためのワークシート（3部構成）：内容によって段落を適切に設けているか。</p> <p>第4回 活動3の報告文で、インタビューの内容について、要点やインタビューイの気持ちを学んだ表現を使って表し、自身の感想を添えているか。</p>		